

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所 [担当：奈良井・永野・澤村]
TEL：0853-22-6772
FAX：0853-24-3342

令和5年度 病害虫発生予察情報 技術情報第3号

令和5年7月18日
島 根 県

水稻 斑点米カメムシ類の発生状況について

水稻斑点米の原因となるカメムシ類の発生が平年に比べて多くなっています。今後、水稻出穂により本田へ移動する恐れがあります。

現地では発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除をお願いします。

記

1. 発生状況と今後の予想

- 1) 7月13日に出穂している極早生ほ場ですくい取り調査を行ったところ、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は83.3% (平年84.0%)、平均捕獲虫数は13.7頭/20回振り(平年9.0頭)と発生量は平年に比べてやや多い(図1)。
- 2) 主要種はアカスジカスミカメであるものの、大型のカメムシ類(ホソハリカメムシ、イネカメムシ、クモヘリカメムシ等)の発生ほ場率が83.3% (平年45.3%)、平均捕獲虫数4.00頭(平年1.68頭)と平年に比べてやや多い(図2)。
- 3) 7月第2半旬までに予察灯(出雲市)での斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメ)の合計が83頭(平年132.7頭)と平年に比べてやや少ない。
- 4) 中国地方1か月予報(7月14日広島地方気象台発表)によると、気温は平年に比べて高くなる確率が60%と本種の発生を抑制する要因とはならない。

2 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 粉剤、液剤による防除は、第1回目は穂揃期の3日後、第2回目はその10日後に散布する。粒剤による防除は出穂期～穂揃い期7日後までに3cm程度の湛水状態で行い、散布後7日間は止水状態を保つ。その後、成幼虫の発生に応じて追加防除を行う。その後、ほ場に成虫や幼虫の発生が認められる場合には追加防除を行う。広域的な一斉防除を行うとより効果的である。
- 2) ほ場内のヒエ類などはカメムシ類の増殖源となるので早急に処分する。

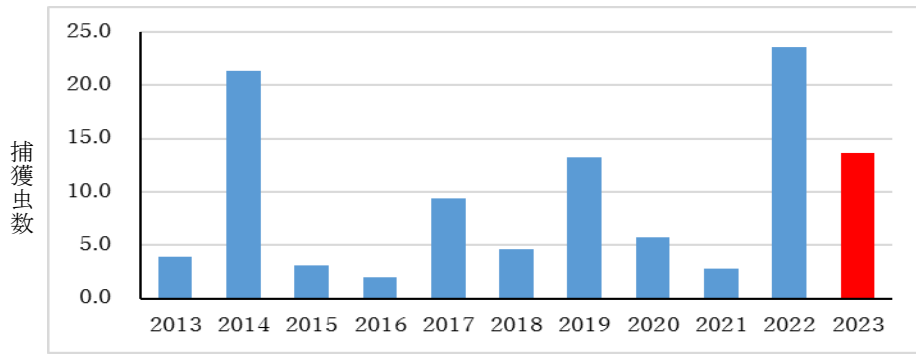


図1 斑点米カメムシ類の平均捕獲虫数（水田 20 回振り 7 月中旬調査）

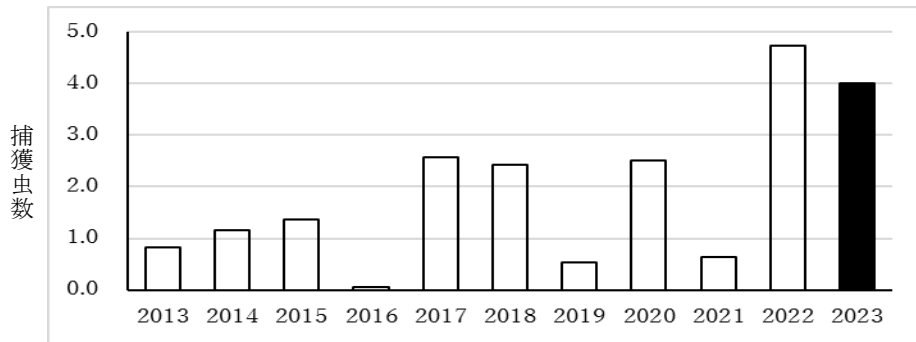


図2 大型の斑点米カメムシ類^{*}の平均捕獲虫数（水田 20 回振り 7 月中旬調査）
^{*}※ホソハリカメムシ、イネカメムシ、クモヘリカメムシなど



図3 ホソハリカメムシ
（成虫）



図4 イネカメムシ
（成虫）

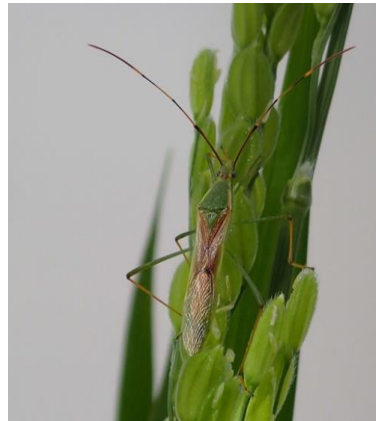


図5 クモヘリカメムシ
（成虫）